



深江中学校だより

令和5年3月24日

第14号

文責：校長 黒岩 洋史

【学校教育目標】 ～社会に貢献できる 人間性豊かで しなやかな 生徒の育成～
【スローガン】 時を守り 場を清め 礼を正す

卒業式

3月14日(火)第76回目となる卒業証書授与式を行いました。来賓の出席も制限させていただいたり、場面に応じてマスクを着脱したりと、コロナ禍前に戻した形での実施はできませんでしたが、卒業生60名を温かく見送ることができました。来賓・保護者の皆様からは、「たいへん立派な卒業式でした」「感動しました」「在校生の参加態度や歌も良かったですね」など、お褒めの言葉をいただきました。校長式辞では、卒業生の3年間を振り返りつつ以下の言葉を送りました。(途中より一部抜粋)

…卒業生の皆さんに私から最後の言葉を送ります。それは、「五風十雨(ごふうじゅうう)」という言葉です。五つの風、十の雨と書きます。五つの風、十の雨と書いて「五風十雨」です。五日ごとに風が吹き、十日ごとに雨が降るという意味で、気候が穏やかで植えた苗が順調に育つ、豊作の兆し、世の中が平穏無事であることの例えとして使われます。植えた苗が順調に育つためには、水が欠かせないので十日ごとの雨が必要であることは想像がつくと思いますが、五日ごとの風はなぜ必要なのでしょう？それは、苗の時、まだ土の中に根が十分に根付いていない時に風が吹くと、飛ばされないように細い根がぐっと土の中で踏ん張るそうです。そのたびに、根は強くなり、土にしっかり根付いていきます。つまり、風が吹くたびに根はたくたくましくなり、養分を吸収できるようになるのです。風が吹かないと、根はいつまでも細いままだそうです。私たち人間も似ているところがあって、心地よい風や気持ちのいい風ばかりではなく、時には冷たく厳しい風が吹き抜けることがあります。でも、そんな時こそ、ぐっと耐えて根を張ることができるのです。特に、皆さんのように若い人たちは、まだ根が細くて吹き飛ばされそうになるかもしれませんが、それは、自らを成長させるチャンスなのです。今回の新型コロナのような、冷たい風や激しい風に、負けたり逃げたりするのではなく、試練の風が吹く時にこそ、しっかり根を張るチャンス、人間性を高め成長するチャンスと捉え、時には我慢し、時には挑戦し、時には工夫し、そして時にはゆっくり息抜きもしながら、これからも乗り越えていってほしいと思います。

ここ地元深江の方々には、雲仙普賢岳災害も経験され、厳しい自然環境の中で、先祖代々「素朴でやさしい心根」の中にも「誇り高い志」を秘め、たくましく生き抜いてこられました。第七十六回卒業生となる皆さんも、どうか、この歴史と伝統のある深江中学校の卒業生として、「優しく、誇り高く、五風十雨の精神」でこれから先も生活してほしいと思います。そして、生涯にわたり、地元はもちろん、どこの地においても、郷土を愛する仲間として、地元深江・地元南島原を応援し続ける存在であってほしいと願っています。

【卒業式後の集合写真】

3年1組

3年2組



(裏面あり)

修了式

「受け身・指示待ち・自信がない」…自主性・主体性等が足りないと感じる子供たちを表現する際に使われる言葉です。特に、コロナ禍の影響でそのような子供が増えてきているように感じます。本校の生徒にも同じことが言えると感じています。そこで、本日の修了式で以下のような話をしました。(途中より一部抜粋)

…私も、今年1年を振り返りました。皆さんが頑張っている姿、輝いている姿、成長した姿をたくさん見てきましたが、さらなる成長のため、次年度、特に意識してほしいことがあります。それは、「受け身・指示待ち」からの脱却です。ここ数年、コロナ禍の影響もあり、自分の判断で行動することが難しく、先生方からの指示で動いていたことが多くあり、受け身や指示待ちの場面がたくさんあったと思いますが、コロナ禍の出口が見えてきた今だからこそ、特に意識して欲しいのです。卒業式の式辞でも話をしたように、これからの時代は、この先何が起るかわからない予測困難な時代であると言われていています。そんな時代を生きていくのに、受け身や指示待ちでは、自身の思うように生きていけないばかりか、様々な場面で損をされると言われています。

では、受け身・指示待ちを脱却するために大事なことは何か？それは、「気づき・考え・判断し・行動する」ことです。もっと詳しく言うなら、「色々な物事に興味・関心を持って気づき、自ら考え、正しく判断し、進んで行動する」ことです。受け身・指示待ちから脱却するため、「気づき・考え・判断し・行動する」ことを念頭に、是非、次年度の目標も立ててみてください。

もちろん、学校での指導・支援・取組だけでは、自主性や主体性等を育成したり伸ばしたりすることはできません。ご家庭でも、気づくためのヒントを与えたり、考えさせる場面を仕組んだりするなど、ちょっとした工夫の積み重ねで変わっていき、成長につながると思います。元々はそういった力を持っている子たちばかりです。学校・家庭・地域の適切な関りによって、その能力を最大限に引き出したいものです。

最後に…

今年度最後の学校だよりとなりました。令和4年4月11日に今年度第1号を発行し、今回で14号を数えます。保護者の皆様や地域の皆様にどれだけお目通しいただいたかは分かりませんが、学校の様子や校長の考えが伝わればとの思いで、何より、子供たちのよりよい成長に向け、学校・家庭・地域が連携していくためのツールになればとの思いで、発行させていただきました。時には、感想や意見を頂戴することもあり、改めて、学校だよりの重要性を実感した次第でした。次年度も、発行予定です。引き続きよろしくお願いいたします。

右の写真は、玄関正面に掲げている深江中学校の学校教育目標です。この学校だよりも、毎回掲載させていただいております。「学校教育目標」とは、「各学校が、自らの行う教育活動を通じて、そこに在籍する生徒にどのような力を習得させようとするのかについて学校独自に表現したもの」です。要するに、その学校固有のもので、生徒や保護者、教職員、地域のニーズや実態によって規定され、周囲の自然環境条件や時代的・社会的背景によっても異なります。本校では、教職員一人一人、この目標を念頭に置いて日々の教育活動に取り組んでいますが、改めて見てみると、言葉の選択や表現など本当によく考えられ、設定された目標であると実感します。同時に、日頃の教育活動には、まだまだ工夫・改善の余地があることにも気づかされます。この1年、本校の安定した学校経営ができたのも、保護者・地域の皆様のご理解とご協力のおかげです。この場を借りて、感謝申し上げます。次年度も、この教育目標を掲げ、日々の教育活動に取り組んでいく予定です。

